

五人戦記

盛留真悟

ALGI
Products

目次

登場人物紹介	
登場人物紹介	2
第壱部「五神」	
第壱部第壱場 謗法の青い僧とマントの赤い若武者	4
第壱部第貳場 新緑の落ち武者と娘に化けた桃太郎の末裔	5
第壱部第三場 黄金色の剣士とその主	7
第壱部第四場 若武者と影武者	8
第壱部第五場 二万の兵とと青乃宣言	9
第壱部第六場 化け物どうし	10
第壱部第七場 天下統一のススメ	11
第壱部第八場 女の意地	12
第壱部第九場 あだ名	14
第壱部第十場 活路	18
第貳部「昭和」	
第貳部第壱場 代議士	24
第貳部第貳場 スナイパーと幻想流星	25
第貳部第三場 山小屋	26
第貳部第四場 市街戦	28
第貳部第五場 時代	31
第貳部第六場 援護	32
第貳部第七場 てれび	35
第貳部第八場 秘密	37
第貳部第九場 うわのそら	41
第貳部第十場 恐れていたこと	43
第貳部第十壱場 桜吹雪	47
第貳部第十貳場 正直捨方便	51
第貳部第十参場 祝言	52
第貳部第十肆場 お世話になりました	54
第貳部第十伍場 日記	57
あとがき／資料	

あとがき	60
資料 登場人物詳細	61
資料 大志	65
奥付	66

登場人物紹介

登場人物紹介

五人戦記 登場人物紹介（簡易）

日記織田の若武者。王の器を持つ。本田三郎を名乗る。

藍海怪しげな術を使う僧。青の字とも言われる。時代を超えるほどの力を持つ。

落ち武者 井村晩次郎。優れた回復力を持つ。呼吸が合わない。

桃の字 桃山雪乃丞。桃太郎や鬼の末裔。派手な技を使う。

文無し 佐々木一平太。才覚溢れる剣士。戦術家でもある。

小雪 桃山小雪。雪乃丞が女性に化けた姿。

オキヌ 藍海を慕う村娘。

虎信三郎の側近。

総一郎 目黒総一郎。代議士。なかなかの名士である。

絹恵 目黒絹恵。総一郎の姪。銃の名手。

老人 放浪の翁。

第壹部「五神」

第壱部第壱場 謗法の青い僧とマントの赤い若武者

五人戦記 第壱部「五神」

幕、上がる

日記 時は戦国の世！

突如現われたもののけに各国大名の軍勢がこぞって戦いをいどんだ！

何千何万の武士が次々と命を落としていった！

照明変わると、背景は夕空のよう、落日は確実に夜を招く。

遠くにざわめき。藍海がその方向を見つめる。ムムと目をかすめる。

そでから娘が現われる。

オキヌ和尚様、和尚さま！ お逃げになって下さい。

藍海何事じゃ、ただならぬさわぎじゃが。

オキヌ峰を超えた里にもものけが現われました。早駆けがふれまわっております！

藍海ものふどもは何をしておる！ 戦などしておる暇があったら国くらい護れ。

オキヌ 和尚様！ のんびりしている場合ではございません。

和尚様にもしものことがあれば、この村に明日はありませぬ。

藍海たわけい！ 民あつての村じゃ、腐れ坊主のひとりやふたりくたばろうとどつてことないわい。

オキヌ 何をおっしゃるのです。いいから逃げましょう。

藍海逃げるじゃと？ 逃げるのはうぬらだけでよいわ。拙僧は妖かしで戦う。

オキヌ なりませぬ。和尚さまはお逃げください！

藍海優しい娘よのう！

藍海、オキヌの頭に手のひらをのせる。

藍海 行け！

オキヌ 和尚様！

オキヌ、駆け出す！

藍海 山を降りて幾星霜。

教えを求め、東へ東へと旅したものの、よる先よる先貧しい村々！

救えど救えどきりはなし。富士の景色に住むという法華經の行者に出会うこともかなわず。

妖かしばかりおぼえたこの破戒坊主。これが仏罰ならばあえて受けよう！

国土（こくし）なきこの島でみごと散ってみせよう！

藍海、構える。怪しげな九字。

そこへ突如、数人の侍、そしてマントをつけた将が現われる。

日記 威勢のいい坊主がいたものじゃ！

藍海織田のうつけか。

日記・・・わしもいれろ！

侍ども 殿！

侍ども 殿！

藍海、振り向く！

照明、変わる。

第壱部第貳場 新緑の落ち武者と娘に化けた桃太郎の末裔

照明、変わる。

武士たちの敗残姿。

死体かと思われた武士が一体、のそりと動き出す。

落武者・・・く！・・・くううう。一たちもいれずじまいでこの有様。

主にも先立たれ！ なにゆえ拙者だけ生き残ったあああ！

殿。殿。天におわす殿よ。拙者も後を追いまする！

殿より先に死なぬ武士じゃ。この恥じ。腹を切って詫びまするううううう！

膝立ちになり、腹を出す。刀を持ち替え、腹に狙いをつける。

さあ、斬らんといいた表情のまん前。小雪が通り過ぎる。

落武者、目で追う。

小雪、気付くが流す。武士たちの骸から何か学びとろうとしているらしい。

落武者、少し考え、助平な顔をする。うなずき、そして。

落武者 娘！ こっちへこい。

小雪・・・。

落武者 こっちへ来いと言っている。

小雪 余を呼んでおるのかえ。

落武者 他にいるか。

小雪 元気そうじゃのう。

落武者 そういえばずっとたに切り裂かれた記憶があるような。

小雪なにやら阿呆のようじゃな。

落武者 武士にむかって何を申す！ ええい、てごめにしてくれるわ。

小雪 阿呆は何を考えても阿呆じゃのう。

落武者、襲いかかる。ああん、なんか野獣って感じ！

小雪、さらりとよける。襲う、よけるの関係が繰り返され、すげえ早くなる。

なんかのひょうしに落武者が優位に、で、ぱっくりいきそうな瞬間。

桃の字が黒布をかぶってダッシュしてくる。落武者に蹴りゃ！

落武者、こける。

桃の字、小雪に黒布をかける。小雪掃ける。（方法はなんでもいいが、小雪と桃のチェンジ）

桃の字 どうしてこう武士って奴あ、品がないかね。

落武者、ちょっとゾンビ気味に桃の字に相对し、構える！

落武者 おう！ 人様の恋路に横槍いれるたあてえした度胸だ！

桃の字かああっ！ 気色悪い！ あの、どこが恋路だったの。

落武者言うかああ！

二人の殺陣。

照明！ ガッと変わる！ バッと掃ける！

曲が派手になる。そうさオープニングさ。

あっちこっちからかけ声！ 「でっやあ！」とか「ふりゃあ！」とか。

「(劇団名)」 「(分類)」 「(何回とか) 公演」

そして揃えて「五人戦記」
出せるようならタイトルロールを出す。

第壱部第三場 黄金色の剣士とその主

明転後、ある大名の屋敷。

大名そうであったか。佐々木一平太、そなたを、例のものけ討伐の先鋒とする。
文無し は。ありがたく引き受けさせていただきます。
大名思えば、出世したものだな、一平太。
文無し 全ては殿のおかげでございます。
大名いや、ソナタの剣の腕前ゆえじゃ。見よ。各国の大名ものどから手が出る程欲しがっておる。
武士は強ければそれでよい。
文無し 私のような、下級武士に厚いお情け、有り難く存じます。
大名今は乱世じゃ。強うなければ意も通せぬ。
しかも、今度のものけ騒ぎじゃ。
次から次へとなぜ、この島ばかり。
のう、一平太。平和はいつ来るのじゃろうな。
文無し 恐れながらも。殿が天下を治めれば丸く収まるかと。
大名なかなか嬉しいことを言う。
じゃがのう、一平太。高い玉座につくほどなにか大事なことを忘れるものなのじゃ。
わしも油断すれば容易に地に墜ちる。そんな時代じゃ。
一平太。勝ってくるのじゃぞ。
文無し 命に変えても。
大名 命は持って帰れ。そのときは褒美をやる。
文無し かしこまっております。

暗転。

第壱部第四場 若武者と影武者

日記と虎信がいる。

虎信 殿、本気でござるか。

日記 ああ、本気じゃ。

虎信 なんと、いつもまあ、突飛なことを。

日記 許せ虎信。どうせ、わしなど各国ではものの数にも入っておらぬ。

突然消えても、誰も驚きやせんわ。

そこでじゃ。

そなた。拙者の影武者にならぬか？

虎信 何をおっしゃいまするか？ 殿の真似など真でもいやです。

日記 そう、あせるな。何も儂になりきれというわけではない。

おぬしがおぬしなりに、儂を名乗ればよいのじゃ。

虎信 との。殿は何を考えておるのですか！

日記 戦じゃ。

虎信！

日記 戦と言っても人間じゃあない。

例のもののけじゃ。

あやつがおっては何も生まれぬ。何も栄えぬ。わしもそろそろぶらぶらしてはおれんからなあ。

近頃、家臣の何人かは余を疑って、城を下っておる。

そのうち数が減りに減ったら、挙兵しよう。

そなた、密かに精鋭を集め、森の奥で修行させよ。

他国に気付かれないう、ひっそりとな。

そうすれば、その武士達はお前にならついてくる。

儂は、家を継ぐよりも大事な仕事がある。

おぬしには、才覚も実力も決断力もある。ないのは家柄だけじゃ。

織田家まるごとくれてやるわ。

虎信 しかし。

日記 気にするな、考えは全て巡らせてある。

暗転。

第壹部第五場 二万の兵とと青乃宣言

法螺貝の音。

文無し指揮のもと、大軍がもののけに挑む。

残虐にも猛烈な勢いで死んでいく。

文無しやはり拙者でなくては無理か。

うりゃああああ！

駆け出す。

照明に無気味な変化。

文無しどりゃ。ううううっりゃ！

でや。でや！

そおおおううりゃ！

く。斬っても斬っても、また生えてくる。

は。馬が！

まさか喰うとは！

このもののけめええええ。

この剣の餌食になれえええ！

佐々木流奥義！半月斬り！

何。別の触手が！

そっちには城が。

殿！ 殿！ 殿おおおおお！

日記 佐々木一平太の率いる二万の兵はもろくも崩れた。

剣の達人とうたわれる一平太の大軍ですら撃てぬもののけに、各地の武士は恐れをなした。

翌日。

源氏織田家の使者が京都の朝廷に顔を出した。

藍海 もはやこの国には神も仏もそっぽをむき。

帝様の御威光も民には届かず、ただただ人の死ぬ、地獄となっております。

この戦国の時代は帝さまがお納めになるとして、あのもののけはこの藍海めにお任せください。

さしずめ、人の放った妖かしが野で大きくなったものでございましょう。
あらかじめ、知っておいていただきたいことは。
この時代で戦っては被害は広がる一方であろうとのこと。
よって拙僧は、我が秘術を尽くし、遠き来世に送ろうと考えております。
無論、拙僧も後を追い、必ずや仕留めて参ります。
お頼みしたいのは、拙僧と連れ立ち、時を越えもののけを討伐できる強き武士でござい
ます。
この話し、決して脅しでもなんでもございませぬぞ。
国を越えて武士を集められるお方は帝をおいて他にございませぬ。
どうか、この国をお救いください。

日記藍海の提案は「青乃宣言」としてまたたくまに全国に配られた。
そこにはこう書かれていた。
藍海もののけ討伐のゆえ、神のごとき猛者求む。

場面、変わる。

第壱部第六場 化け物どうし

なぜか戦い続けている桃の字と落ち武者。

桃の字 貴様も、しつけえなあ。俺あ、桃太郎の末裔だぜ。
人間じゃあないの。わかる？
なんでお前、俺の動きについて来れんのさ！
落ち武者 なぜかは分からんが死にかけてから、ぐんぐん動く。
傷だらけのはずがこうしておぬしと斬りあっている内に全部治った。
桃の字 でたらめな奴だなあ。
落ち武者 おぬしこそどうしてさっきはオナゴだった！
桃の字 気付いてんじゃねえか。
落ち武者 なんとなくなあ！
桃の字 まあ、女の姿なら腹も減りにくいってもんよ。
落ち武者 てめえ、さてはバケモンだな！
桃の字 さっきからそう言ってるだろうが！

オキヌ 待て！
 2人はあ？
 オキヌ なんて太刀筋の早い者達。
 桃の字あんたは？
 オキヌ それよりこれを見て！
 2人あん？・・・神のごとき猛者あ？
 オキヌ 迎えにきたわ。詳しくは後で。
 落ち武者肌のきれいな嬢ちゃん。一緒に団子でもどうだい？
 桃の字まだ懲りてねえのか。てめえも好きだなあ。
 落ち武者女のふりしてる奴に言われたくないわい！
 桃の字なにいい！俺の化け方に文句つけんのか！
 オキヌ 続きはあとでよ！来てくれるわね、もののけ討伐。
 2人うん。まあ。
 オキヌ 凄い人たちに会わせるわ！

第壱部第七場 天下統一のススメ

日記 虎信！ 儂になりませ！ そして強い国を作れ！
 虎信 殿？
 日記 鬼になろうと魔王になろうと、強き国を作れ。
 われらの決戦の舞台は来世じゃ、遠き未来じゃ。
 その時、強き国がなければまた同じことの繰り返しじゃ！
 天下に武を持って広めよ！
 新しき織田の君主を！
 よその国にも負けず、自国に争いもなく、世界に誇る国を作るのじゃ！
 全てはここに記しておいた。
 明日中に読み、捨てよ！
 そして、準備が整ったら我が名、織田を名乗るがよい。
 大暴れして、決着をつけよ。
 覇者がいればこの島もいくぶん落ち着く。
 虎信 殿・・・。
 日記 わしは今日から本田三朗。そなたは織田・・・そう、織田・・・信長だ！
 虎信 殿おおおお！

第壱部第八場 女の意地

オキヌ 和尚様。面白い輩をみつけました。

藍海・・・。

オキヌ 和尚様。喜んではいただけないのですか。

藍海 ついてきてはならぬと言ったはずじゃ。

オキヌ 和尚様のお役に立てるのなら、お絹は命も惜しゅうございません。

藍海 そなたは生き抜け！

オキヌ いやです。お絹は和尚様についてゆきます。必ずお役に立ってみせます。

藍海 ならん。むしろ・・・足手纏いじゃ。

オキヌ 足手纏いでも、ついてゆきます。

藍海 おぬしには別の役割もあろう。

オキヌ ございませぬ。和尚様のお役に立つことのみが、お絹の願いでございます。

藍海 願いか。叶えてやりたい。・・・だが、今度ばかりはそうは行かぬのじゃ。

物の怪の存在あってはソナタの子や孫に残すための里も人ものうなってしまう。

オキヌ 子は・・・子はできませぬ。

藍海 なんと。娘ともあろうものが子を作らぬと。

オキヌ 賢い和尚様のこと。すでにお気づきでございましょう。

和尚様は決して口にしないでしょから、自分めで言います。

お絹は和尚様のことをお慕い申しております。

藍海 言うな お絹。拙僧は出家した身じゃ。お主を娶ることはできぬ。

オキヌ そんなもの。和尚様の言い訳です。

和尚様は女を愛さない。和尚様の眼には、哀れな民しか映っておりません。

お絹もそんな民のひとりでしかありません。

でも、お絹は和尚様を慕ってしまったのです。

藍海 すまぬ。

オキヌ 村に来て、和尚様は字を教えてくれた。知恵を伝えてくれた。

「ヤブじゃ」といいながら病と戦ったではございませんか。

そんな和尚様に惚れてはならぬというなら、私は何を愛せというのでしょうか。

お絹も人の子です。仏の子です。和尚様のお役に立ちたい。

藍海・・・わかった。オキヌ。

そなたに仕事を任そう。

オキヌ 和尚様。

藍海 遠く東まで使いに出てもらおう。

拙僧の出会うことのできなかつた、法華經の行者に逢ってきてもらおう。

拙僧はちょっと進んでは道草ばかりくうからな。

ちょうどお主と同じような境遇の村にすぐに出くわす。

儂はもう、東へむかう暇（いとま）がない。

オキヌ行きます。必ず行ってみせます。

藍海よし、そして拙僧からの手紙を渡すのじゃ。

オキヌ 宛先は。

藍海 富士門流の貫主（かんず）に宛てよ。

拙僧が学びし叡山ですら放棄した難儀中の難儀、法華經を掲げておる山じゃ。

オキヌ 確かに。

藍海 なにか助言のひとつもあろう。

オキヌ それだけでよいですか。

藍海無理はさせたくない。

オキヌ 無理を言ってください。

藍海 お絹は賢いな。

オキヌ 和尚様は甘やかすのが上手です。

藍海 ま、いかにも。

オキヌしかし、和尚様は意地悪です。

藍海・・・。

オキヌ富士まで行って帰ってくるころ。丁度、和尚様は旅立たれるのでしょうか。

藍海 おぬしにはかなわぬな。

オキヌわたくし、必ずそれまでに帰ってきます。

和尚様が発たれるより早く、お返事のお手紙を持って参ります。

女の覚悟というものを御覧くださいませ。

藍海 強いな。

わかった。見せて見なさい。女の覚悟というものを。

・・・これはあらかじめ綴っておいた文（ふみ）じゃ。

なくしたときのために、途中、必ず読んでおきなさい。

オキヌお絹はなくしたりしませぬ。

藍海 わしのいうこと。聞けるな。

オキヌ わかりました。足を休めるときに必ずよみます。

藍海 よろしい。では、明日にでも発つがよい。

オキヌ何をおっしゃいますか。早く帰るには早く発つしかありませぬ。

藍海おぬし。

オキヌ今から東へ向かいます。別れは申しません。必ず間に合わせますから。

藍海 お絹。

オキヌ 和尚様。お達者で。

藍海道中くれぐれも無事でな。

オキヌ和尚様、屋敷に2人、猛者を用意しました。

連中にも会ってやってください。

藍海 わかった。

・・・すまぬな。お絹。

オキヌ では。約束の日まで。ご免。

オキヌ、走り去る。

第壱部第九場 あだ名

藍海 すまぬ。すまぬな。儂が未熟なばかりに。

日記嫁にもらってやればよかろう。

藍海 儂は誓願を立てておる。

日記 どんな誓願じゃ。

藍海 儂の納得のいく悟りに出会うまでは還俗せん。

日記 厳しい男だな。

藍海 この日本のどこに今の神仏を心から信じている者がいる？

この戦の続くこの島になんの光明がある。

大事な何かを失っているのだ。その大事な何かを探して儂は彷徨っておる。

日記 全ての僧がお主ほど真面目に学んでおれば、剣などいらぬ世になっておろうに。

藍海 武家の言い方とも思えんなあ。

確かに、今も昔も本当慈悲のある僧は一握りじゃ。それも一代にひとりづつくらいじゃな。

日記 すべてやり直す必要があるな。

文無しがいる。

文無し 藍海どのお見受けいたすが。

藍海 いかにも。

文無し 拙者、佐々木一平太という侍でございます。

日記 侍か。謙虚だな。

文無し 御仁は？

日記 本田三郎と申す者。

文無し 本田三郎・・・。

日記 どうした。

文無し いや。ソナタ程の男がなぜ無名なのかと。

藍海 なかなか鋭い武士じゃな。

文無し は。剣だけは励んでおります。

日記 佐々木一平太といえば天下に轟かんばかりの若い剣豪じゃあないか。

主の代わりに将を務めた。

文無し 拙者は主を守ることができなんだ。

あの物の怪めに必ず仇をうちます。

藍海 お主程の腕があれば、寝首をかけたろうに。

今の武士はそういうものなんじゃろう？

文無し 藍海どの、ひどい皮肉ですな。

確かに今の世は下剋上。そんな武士もおりましよう。

しかし、この佐々木一平太は殿に拾われた身。身も心も捧げた気でございました。

日記 病で倒れてたんだって？

文無し それをどこで？

日記 それなりの筋から入った話だ。第一、自分で戦に出ない武士など、考えられん。

文無し 凶星です。殿は拙者に武勲を立てさせようと、拙者に将を任じました。

しかし、あの物の怪めは・・・。

藍海 城ごと喰ったとか。

文無し そのとおりです。

日記 しかし、なんでお主生きておる。

主君なき後は腹を切るのではないか？

文無し これから生死を共にする方々の手前、本音で語ります。

拙者、正直いって、命が惜しゅうございました。

日記 ほお。

文無し 生きてさえいれぼうまい飯も食べましょう。

藍海 珍しい奴じゃのう。

文無し 時が時なら、武士でなくともよかったのです。

腕一本でのし上がれるのが、今は武士しかござりませんから。

藍海 どう思う。三郎。

日記 参った。こやつ、商人のような賢さじゃ。なんと賢い。

文無し 頭だけではござらん。鵜でも確かです。

藍海 はっはっは。こいつはいい。佐々木殿、カネにはならぬと一緒にくるか？

文無し もちろんですとも。英雄の名はカネにも勝る甘露です。

日記 言うよなあ。これからのむぞ。

桃の字おっと。俺等を待たせすぎじゃないの？

藍海 まさかオキヌの言った。

桃の字そう。あの娘に連れてこられた。あんたが例の和尚様？

それと、剣の達人佐々木殿。あと、このやんちゃそうな、あ、あんた織田の！

日記 げ、なんでそれを。

桃の字 顔見りゃわかるよ。

日記 俺と親父、似てないって評判なんだけどな。

桃の字 なんてゆうかなあ。俺あ、普通じゃねえんだよな。

落ち武者 コイツバケモンなんだよ。

桃の字 あああーあ。相変わらず調子の狂うやつだなあ。

落ち武者 なんだっけ。桃太郎の子孫だっけ。

みんな 桃太郎？

桃の字 軽々しく言うな。お前、ものには順序ってもんがあんだらう。

えっと。おれは桃山雪乃丞。こいつが言ったとおり桃太郎さんの末裔だ。

ついでにいうと、内の家系は貴族やら動物やら忍びやら鬼やらの血が混ざってるって伝説だ。

ま、最近有名じゃねえけどな。

で、さっきから間の悪いこの男は伊村晩次郎、三日程前に物の怪にやられた軍の生き残りだ。

落ち武者 いかにも拙者は・・・

桃の字 あーじゃべんな順序良くしゃべってんだから。

こいつは殿様死んで腹切ろうとしたけど、俺とかち合って死に損ねた。

まあ、もともと結構強かったらしいが集団戦法が苦手だとかで。

落ち武者 おれせーのってのは・・・

桃の字 ああしゃべんな。

ところが、生き残ったら突然強くなった。

日記 はあ？

桃の字 なんでも、物の怪に噛み付いたせいらしい。

藍海何？ 返り血を浴びただけで病にかかるといふのか。

文無し よくしってるな。

日記 だいぶ迷惑した。

落ち武者 だああああーあ。拙者にもいわせろ！

拙者は呼吸こそみなとは合わんが、体だけは丈夫じゃ。

死にかけるとまた強くなる。

奴のなんだ、触手みたいなのに噛み付いた後も、

ちょっときつかったがまたほんのしたらまた強くなった。

桃の字 な。こいつもだいぶ、バケモンっぽいだろ。

落ち武者 拙者はバケモンじゃない。

愛の戦士 といってください。

全員 なんじゃと？

落ち武者 愛の戦士じゃ。

好きなおなごになんて言おうか考えているうちに元気にもなろう。

日記 呆れた奴だ。女好きが神通力か。

文無し 神通力？

日記 ここにおける連中はただならぬつわものじゃ。

そこの坊さんが探したとおりに「神のごとき猛者」じゃ。

まあ、その人並みはずれた力ってのもなんか原因がある。

坊さんは仏の道。佐々木どのは剣の道、出世の道。

そこの落ち武者は、おなご好きの道。

桃山、あ、桃の字でいいかな、お主は目立ちたいだけ、まあ、花の道とでも言おうかの。

桃の字へえ、いいとこつくなあ。そうよ。俺は鬼が島でくすぶってるたまじゃあない。

で、あんたは。

日記 王の道ってとこかな。

文無しやはり。

藍海 なみはずれた器じゃからな。

日記 よせやい。

桃の字いや。あんた魅力あるよ。俺いつも自分よがりだが、あんたについていくのは楽しそうだ。

藍海 ふん。粒ぞろいじゃないか。

日記 五人か。

桃の字人にしちゃあ、なんか違う感じのする連中だな。

日記 五神（ごしん）かな。

そうだな、いつつのかみ。五神だ。

文無し 五神か。英雄の名にふさわしいな。

藍海 まあ、ばけものと言われるよりましか。

落ち武者 神通力かあ。

文無し まだ、その話してござるか。

落ち武者 え、何か間違っただござるか。

文無し もう、その話はすんだはずじゃが。

たしかにこの伊村・・・ああ、落ち武者で充分でござるな。

こやつは間がおかしい。

全員（笑い）

落ち武者 落ち武者ってなんだ、それ。

そなたこそ、主君がいなくて、銭がないではないか。

この一文無しめ。

文無し 文無しか。そいつはいい。

佐々木一平太も殿がいなければただの文無し。こいつはいい。

落ち武者 おもしろくねえの。悔しがってくれない。

日記 桃の字に、文無しに落ち武者、じゃあ、坊さんは・・・

桃の字 藍海さんかあ、青でいいんじゃないかい。

藍海 青か。藍色からって青の字か。

桃の字 じゃあ、織田のは・・・。

日記 三郎でいい？

桃の字 なんだ。

日記身分をかくすためにわざわざ考えたんだ。
桃の字まあ、しっかりこねえけど、当分それでもんだな。
文無し五神。せつかく名前がついたんだ。増えたり減ったりはなしだな。
藍海 お互いの力次第だ。
日記わかっておる。わしがうまく組み合わせればいいんじゃないろう。
あ、ただし、落ち武者はいつもちょっと離れておけ。
全員はっはっは。
日記 なにやら、呼吸があわなんだからな。
落ち武者 あんた賢いなあ。
文無し表に出ておれば名のある名将だったものを。
日記その夢は別のものに託した。
藍海 虎信か。
日記あいつが天下を統一する。
藍海 自分じゃやらんのか。
日記 雑作もないが、心苦しくてな。
藍海 人は殺せんか。
文無し 拙者はそんな三郎どのについてゆこう。
天下などいつでもとれそうなものと、平気で言える。
そのくせ、人を殺せぬという優しさ。
そなたがこの五神の将じゃ。
日記・・・いいのか、拙者で。
藍海分かっておるくせに。
日記 ま、しょうがないか。
全員（笑う）
藍海 仲良くやっていけそうだな。
辛い戦いになるが、心を合わせ、
日記 この日の本を救おう！
全員 わかっておる！
がはははははああああ。

第壱部第拾場 活路

日記 かくして五神は揃った。
準備の整うほんの数日間、互いの素性を語り合った。

それが、つかの間の休息だと、誰もがわかっていた。

戦への恐怖と鼓舞。

それを打ち消したのは未来への期待と希望だった。

それぞれがそれぞれのために、未来をかけて、この戦に挑むのである。

大きな太鼓の音。

戦の支度整え、ついに立ち上がる。

藍海我が秘技を最大に発揮するには、あやつの本体に最も近いところまでいく必要がある。

みな、そこまでの活路を開いてくれ。

とどめを刺すのは秘技のあとじゃ。

わしの合図とともに、駆け出すぞ。

オキヌ お待ち下さい、和尚様！

藍海 お絹！ まさか本当に帰ってくるとは！

小雪歓迎したら？ 和尚さん。

オキヌ これを！（紙をわたす）

小雪 さあ、和尚さん。

藍海 これは・・・。

「御書に曰く『無上道とは南無妙法蓮華経是なり』とのご金言。

くれぐれもお達者で。現当二世にわたる諸天の加護を祈っております。」

・・・なんと。なんと開かれた法門。藍海は必ずや広めてみせましょう。・・・お絹！

オキヌ はい。

藍海拙僧のためにかたじけない。すまぬことをしたな。

オキヌいいえ。和尚様のため、この日の本のためですから。

藍海よいか。お絹！ この戦いが終わったら拙僧は、還俗し民の間で仏の道を説く。

そなたとは離れてしまうが、これも使命じゃ。

オキヌいいえ、和尚様。

来世でお待ち下さりませ。お絹は和尚様に必ず追いつきます。

何度生まれ変わっても、必ず添い遂げてみせます！

小雪泣かせるじゃない。

いいわ。それまで私がお坊さんを守るわ。

貴方は早く強くなって、いつか追いついて。

私、勘でわかりますの。女の決意は本物よ。

オキヌ和尚様をよろしく願います。

藍海 お絹。・・・達しゃでな。

オキヌ 和尚様こそ。御無事で！（走り去る）

小雪お坊さん。罪なお方。

藍海 業が深くてな。

日記別れも済んだし、行くか。

五神 おおう。

小雪では。行きますわ。(桃の字が布をかけチェンジ)

桃の字俺の剣が唸るぜ。まさに音速！ 散らせ散らせ桜吹雪！

文無し人間相手ではふるえぬ技の数々！ 物の怪よ、試させてもらうぞ！

日記俺の愛した大地を汚す不屈きものめ！

俺を知り俺を活かしたこの日の本の怒り！

思い知れ！ これが武士道というものだ！

藍海我が慈悲が廣大ならば、貴様と言う障害もものの数ではない。

喰らえ時を超えるこの妙技！

落ち武者・・・おれは死なない！ 死ぬものか！ 俺が死ぬときは、俺がへまをしたときだ！

お前など、こわくないわ！

日記 行くぞ！ 五神よ。

各々、一歩出る。

各々が触手を斬り刻む。

日記 でやー！

文無し くらえ！ 鷹そらし！

落ち武者 うりやりりりりりゃあああ！

藍海 哈！ 哈！ 哈！ 哈！

桃の字 行くぜ！ 奥義！ 虹の架け橋！

派手な効果！

日記 今だ。青の字

藍海 承知！

藍海が中央全面へ！

藍海罪障消滅！ われとともに時をかけよ！

南無妙法蓮華経南無妙法蓮華経南無妙法蓮華経！

南無妙法蓮華経南無妙法蓮華経南無妙法蓮華経！

大音響とともに照明が変化！

S E、物の怪の呻き！

全員 うおおおおおおおおお！

暗転！

(第壹部・完 休憩を入れる場合は幕)

第三部「昭和」

第貳部第壱場 代議士

五人戦記 第貳部「昭和」

照明、入る。（休憩明けならば幕を上げる）
パトカーらしきランプとざわめき。ヘリの音。
声だけ入る。

総一郎 わかりました。わたしもすぐに向かいます。
マスコミにはだまっていますよ。
え？ パニックをさけたいのはこっちですよ！
絶対に嗅ぎ付けられないで下さい。
こんなことでバブルはじけてもいいんですか？
あやういガラスの城だってとっくに気付いてるんでしょう。
あなたみたいにおどらされてりゃいいって立場じゃないんですよ、こっちは。
じゃあ、あなたに手が負えるんですか？ すべて私のスタッフがなんとかしますよ。
だからそっちは邪魔を入れないよう手配してくれればいいんです。
知ってますよ。明らかにこれは越権行為なんですから。

音、遠くなる。
総一郎がいる。

総一郎なぜこうも立て続けに事件が起こる。
この土地は注目されるわけにはいかないんだ。（電話をかける）
私だ。おじさんだ。
とうとうこの時がきたよ。君が言ったとおりだ。
しかも出所はどこだと思う？
そう、私の地元だ。怪しいとはずっと思っていたが、あの土地にはまだ秘密がありそうだ。
あそこは世間の注目を集めるわけにはいかない。何？ いや、そういう約束なんだ。
いずれ君にも話す。・・・ありがとう。それについては今度ゆっくり。

ひとまず、私の動きが注目されないよう、東京に向かう。
何を言っている。これは情報戦なんだ。

総一郎、去る。

第貳部第貳場 スナイパーと幻想流星

日記が入ってくる。

日記 今の男。この時代の要人だな。

小雪 たぶんね。

日記 さあて、何から話そう。いきなり聞いてもびっくりするだけだからな。

小雪 いいえ。彼はなぜか私達のこと知っているみたい。

日記 そうか？

小雪 今、あの・・・無線だっけ。あれで話していたのはきっと、物の怪についてよ。

あれ、便利ね。遠くの出来ごとがすぐそばみたいに。

日記 お前と行動して正解だった。他に気付いたことは？

小雪 彼の甥か姪・・・先に予言していたのかしら。

日記 なにもんだらうな。

小雪 ひとまず、山小屋に戻りましょう。

突如、2人ひるがえる。

銃をかまえる音。

絹恵 そこで何をしているの！

日記 やべ。

小雪 逃げましょう！

絹恵 待って！

小雪 奥義！ 幻想流星！

メルヘンな音。へんな効果！

2人あっという間に消える。（幻想流星は逃げるために演出効果で煙に巻く技です）

絹恵 ちょっとおおおおお！

絶叫の中、暗転。

第貳部第三場 山小屋

山小屋。

藍海 奴の行動力、以前にも増して高速じゃ。

文無し ああ、奴なりに工夫がみられる。

われらも急がねば、剣の腕が間に合わぬ。

落ち武者流れの速い時代だな。

この音楽聞けよ。国際社会ってのはすごいな。あっちこっちの文化が混ざる。

藍海 遊びにきたのではないぞ、我々は。

落ち武者別に、遊んでおるわけではない！

正直にこの時代に溶け込んでおるだけじゃ。

藍海では拙僧に適応力がないと申すのか！

落ち武者そんなこと言ってねえよ。

そりゃ、おれたちには使命があるがよ。

そんなすぐにカタのつく戦いじゃないことは誰の眼にも明らかじゃないか。

第一、この時代の戦力だってバカにはならんぞ。

戦車。みさいる。空母。人間じゃかなわない。

俺等で足りない分くらいなんとかしてくれらあ。

藍海甘い！ 甘いぞ落ち武者！

あの物の怪は人の放った呪いじゃ。

いかに強き武器でも、魂のこもった一撃でないと効果はない！

落ち武者 じゃあ、どうしろってんだ。

あ？ 食料にも事欠いて何が戦だ！

第一、いつも冷静なあんたが最近はずっといらいらしてる！

藍海なんじゃとおお！

落ち武者 あんだあ？ やるってのか青の字！

双方構える。

文無し やめい！

2人、そっぽむく。

文無し大人げないですぞ。お二人とも。

贅沢なこの時代の食べ物で舌が肥えましたかな？

少ない食料と言っても、拙者たちの生まれた時代に比べれば随分多いではござらぬか。

お二人とも、贅沢になられたとしか思えん。

藍海・・・そうじゃな。

物の怪と戦う前に己に勝たねばな。

・・・落ち武者、済まなんだな。文無しもかたじけない。

文無しいやいや。

落ち武者 俺も・・・すまない。

なあ、青の字。俺等はこれからどう戦う。

昭和に来てもう一ヶ月くらいじゃ。

なんだか、あやつに弄ばれておるような気にならぬか？

藍海いかにも。あやつは我々をおもちゃにしておる。

今頃はジエイタイともやりあっておるはずじゃが、相変わらず衰える様子はない。

恐るべきは疲れ知らずじゃ。

文無し悔しいな。五神を名乗るわれらも、疲れだけはどうにもならぬ。

藍海いや、わしらは人じゃよ。

人の心を持つ限りはな。

日記待たせたな。

藍海 お帰り、三郎。

小雪 結構走ったわね。

落ち武者 おかえり小雪。

文無し どうであった、偵察は。

小雪 要人と接触できそうだったのだが、銃を持った者に追われた。

日記あれは恐ろしいな。どうよけていいのやら。いつもかすってしまう。

小雪 無理はするな。私でもぎりぎりじゃ。

文無し なにか収穫はあったのか。

日記今、物の怪がいるあたりには何か秘密があるらしい。

小雪私が察するに、隠れ里があるのではないかと思う。

藍海権力者が隠すとすれば、その規模にもなろう。

小雪物の怪はあそこに拠点を築くやもしれぬ。

日記行ってみるか。そこに。

文無し 朝一番に発とう。

第貳部第四場 市街戦

総一朗 く。何なんだ。この道路封鎖は。聞いてないぞ！

まさか、この先にいるのか！

自衛隊は何をしている！ 怪生物ぐらいなんだ！

・・・。

まさか、こ・・・これが例の・・・。

これで儂も最期だな。

日記 でやあああ！

総一朗 き、君は？

日記今は名乗っておる暇などなあああい！

小雪お主は走って逃げよ。（と言って変身）

桃の字あんたには眼の毒だぜ！ うーりゃ！ は！

藍海 哈！ どうりゃ！ 哈！

桃の字 ごめんよお！ みんな逃げてくれい！

文無しとうとう、世間に知られてしまうなあ！ てい！

落ち武者構わねえよ。協力者もでてくんじゃないか！ とおお！

総一朗私はこの国の代議士のひとりだ！ ここで見させてもらう！

日記危ねえって言ってんだろうが！ でえええい！

総一朗君たちに興味がある！ 私はあの怪物を倒さねばならない！

日記じゃあ、ひとまず生き延びよう！ よおし！ 今日はこっちのカタマリいくぞ！

五神 おおーう！

桃の字 そりゃ！ そりゃ！

文無し そりゃ！ そりゃ！

日記 そりゃ！ そりゃ！

落ち武者・・・そりゃ！ そりゃ！

藍海 哈！

落ち武者 そうっりゃ！

効果！

日記ひとまずしばらくは出て来ねえ。

総一朗 あなた方は神か？

落ち武者 五神だ。

藍海詳しく名乗ってよいかな？ 拙僧らははるか戦国の時代よりきた。

たどりついて一ヶ月、この時代のこともだいたいわかった。

だが、わしらについて説明できる文献などはどうもないらしい。

総一朗 いいや。信じます。信じますとも。

ある者からずっと聞かされております。

文無し ある者？

落ち武者 づああああ！

文無し 落ち武者あああ！・・・ってい！

桃の字油断したぜ！ 一日一個ずつってお話じゃなかったっけ。とおおおっ！

落ち武者 むうううううううりゃ！ ぶしえい！

日記ぐはああ。生えるのがはやくなってる。どほっ。

「バババババババ」マシンガンの音。

日記うお。助かったぜい。

藍海おー・・・おおおう！ っと儂もたすかった。

文無しあんた捕まったなら声ぐらいだせい。

藍海のどを閉められておった。ん？ 桃の字いいいい！

哈！ 今助けにどっほー！

もう一度マシンガン。

日記 今だ！

桃の字 そりゃ！ そりゃ！

文無し そりゃ！ そりゃ！

日記 そりゃ！ そりゃ！

落ち武者・・・そりゃ！ そりゃ！

藍海 哈！

落ち武者 そうりゃ！

とどめってな感じ！

桃の字ひゅー。あつぶねえ。

文無し しかし、だれの助けじゃ。

絹恵 わたしです。

絹恵、現れる。その顔はオキヌとほとんど同じ！

藍海お絹う？

絹恵 やっとお会いできました。

文無し まさか。

藍海 お主、お絹か？

総一郎 目黒絹恵。私の姪です。

五神 姪いいいい？

藍海 やはりオキヌではないのだな。

絹恵 いいえ、私はオキヌさんの生まれ変わりです。

総一郎 この子は幼き日より、あなた方のことを待っておりました。

絹恵 なぜかはわかりませんが、いつもみなさんのことを思っていました。

そして、そこの青のお方を見るとなぜか涙が出てきます。

小雪 やるじゃない。オキヌさん。

藍海 まさか、そんなことが。

日記 本当に罪な男だよ！

小雪 いい？ 絹恵さん。

貴方はオキヌさんだったころこのお坊さんに恋して、一途に追うことを誓ったの。

「何度生まれ変わっても必ず添い遂げます」って。

絹恵 ……。そこまでは…。憶えておりません。

しかし、少しはわかります。深い使命がそこにあると、心の声が告げています。

落ち武者 いい話じゃねえか。

絹ちゃん。無理スナって。本当に大事なことならそのうち思い出すって。

文無し（耳もとで）お主はぜえええたいにてをだすなあ。

落ち武者 わかってらい！

文無し 本当か？

日記 大丈夫だ。その時は全員でおしおきじゃ。

落ち武者 何をされるんじゃ。

文無し そりゃ、一ヶ月飯抜きなんてどうじゃ。

日記 そいつは怖い。

全員 はっはっは。

絹、藍海をじっと見ている。藍海は目をそらしている。

総一郎 さて、ここで話しているのもナンですし。

私の別邸にてお迎えしましょう。

絹恵、御案内してさしあげなさい。

絹恵 はい。

暗転。

第貳部第五場 時代

日記我々は昭和の時代にいた。そして、目黒総一郎殿の別邸で過ごすことになった。
天下が統一されていたこと。他国との戦争も終わったこと。
世界が丸いと言うこと。そして、この世界が地球と言う一つの星だと知った。
そのひとつひとつが驚きの連続だった。
一度に多くのことを知り、それぞれに疑問を挟む余地はなかった。
我々はただ、時代というものを受け入れるしかなかった。
俺が興味を持ったのは地球の二大超大国による冷戦構造、核、そして、日本のバブル
だった。

藍海 恐ろしいことだ。一度に国ひとつ消滅させる。
このような悪魔の武器を何故人はつくり出すのであろうな。
日記青の字、広い意味でこの天下というものは統一されてはいない。
考え方の違いを人はまだ乗り越えられないんだ。
藍海 つくづく、進んだ考えを持っているな、三郎殿は。
日記面白くてしょうがない。今や地球の大半は民主主義の国だ。
民が王なのだ。生まれを問わず、育ちを問わず力に関係なく、政に口を出せる。
男女も変わらぬ。これを持ち込んだ渡来の者たちは偉いな。
そして、気づいたことがある。西洋の文明もじき限界だ。
藍海 時代を追いこしておるのか。はかり知れぬおつむの持ち主だな。
お主はここにきて正解だったかもしれんのか。
日記俺を褒めるより今はお主を褒めたい。
青の字の学びきれなかった東洋の神秘は世界をまとめるぞ。
藍海 待て、何を言っておるのか、分からん。
日記仏法だ。俺は偶像も迷信も嫌いだ。時代にそぐわんものも意味がないと思っている。
我らが生まれた戦国の世には何の価値も産まなかった。
だが、今は殴ってことを治める時代ではない。
民主主義には正義が必要なのだ。
藍海 正義か。涙も出そうなほどに、愛おしい義だ。
正義は眠っておる。人が背を向けた。
日記今、蘇るんだ。本当の正義が。
進め！ 進め時代よ！

東西を乗り越え、民族を乗り越え、核を乗り越え！

人よ！ 我らは一つの民だ、互いに王と認め合いたたえ合う民だ！

いいか、青の字。悲しい歴史を終えることが出来そうなんだ。

何千年もなしえなかった人類の悲願だ。

奪い合うこともない、飢えることもない、互いのための本当の歴史が来るんだ。

藍海 なんという巡り合わせ。これが縁というものか。

あの物騒な若武者が今や、正義に目覚めようとしている。

のう、三郎殿。お主には見えるのであろうな、本物と偽物のちがいが。

日記 なんとか。

藍海 では、答えてくれ。拙僧が学びしは。

日記 虚（きょ）。

藍海 やはりな。せいぜい仏法を曲げてきたようじゃな。

日記 しかし、光もある。青の字は本物も知っている。

藍海 そうじゃ。知っておるからこそ、自分の罪の重さも良く知っている。

長く使った妖かしによって、謗法を重ねてきた。そして、この戦いにはまだ妖かしが必要。

拙僧は物の怪を退治するために仏法を曲げておる。

日記 悔やむな青の字。この戦いが終わったら、一緒に学ぼう、正義を。そして広めよう。

時空を超えた我らだ。英雄にもなれよう。そして、正義を叫ぼう！

藍海・・・かたじけない。儂が未熟なばかりに。

日記 未熟でない人間などいない。俺だってそうさ。

視野が広がればまた、志も大きく持たねば。何十億という民がまだ泣いている。

刀でなく、正義を求めている。

だから、行こう青の字。この戦いを早く終わらせ、世界へ赴こう！

藍海 さすが我ら五神の将だ。ひとの理を心得ている。

日記 五神か。恥ずかしいな、この時代。

我らは人だ。特別なことは何もない。・・・五人で充分だ。

藍海 五神も方便か。さよう、武器も方便、妖かしも方便。もしや、この戦も。

まこと、この世は嘘ばかりじゃ。

第貳部第六場 援護

戦闘。五神に絹恵、そしてどうやら自衛隊も背後にいる。

日記 よいか、絹恵。物の怪は普段、実体がない。

日に一つずつ固まりを作る。やつは固まりで餌を採る。これが増えぬようにたたっ斬るのだ！

これさえくり返しておれば、徐々に弱る。コツさえつかめばいつかは勝てる。

絹恵 はい。

大きなうめき声！

小雪 くるわ！（交代！）

落ち武者 よおし、いくっぞお！

桃の字 遅れんなよ！

藍海ふん、迷わずこちらに向かってくるわい。

日記戦車隊ようううい！

ゴオオオオン。

日記 合図を待てええ。

桃の字 おい、あいつ、今日デカくねえか。

文無し こっちと同様の勢力だな。気に喰わん、遊ばれておるようじゃ。

藍海 たしかに引っ掛かる。

文無し 鏡写しのように、わざわざいつも同じくらいの力で。

藍海 待て・・・。

文無し どうした。

藍海 いや。何か分かりかけたのだが。

文無し しかし、今は考える間もない。

落ち武者 奴の強さを超えればいいだけのこと。いつもどおりじゃ。

藍海・・・。

桃の字 きたぞ！

日記 ひきつける。・・・よし、撃てい！

どぼーん。ドボーン。戦車隊集中放火。

桃の字 結構、効いてるみてえだな。

日記 ああ、カラが割れている。

もう一丁、うてええい！

再び集中放火。

文無し やはりな。ぶゆぶゆは受け付けぬか。
 落ち武者 では拙者らの出番はあるようじゃな。
 桃の字目立とうぜ！ 派手に勝ってな。
 日記 行くぞ！
 五神おおう！ そりゃああああああ！（走り）
 絹恵援護します！ だああああああ！
 桃の字 ありがとよ。っふりゃ！
 落ち武者 ふん！ ふん！ お、調子いいぜよ。らブラブぼうっわー！
 藍海 なんじゃ、そのらぶらぶというのは！
 落ち武者 愛の力さ！
 桃の字 なんか、力ぬけるな、おい。
 おっと。行くぞ！ そりゃ！ そりゃ！
 文無し そりゃ！ そりゃ！
 日記 そりゃ！ そりゃ！
 落ち武者・・・そりゃ！ そりゃ！
 藍海 哈！
 落ち武者 そうっりゃ！

効果！
 わずかに静寂。

日記 油断するな。近頃、やりくちがしつこいからな。
 桃の字 おい！ 見ろ。
 藍海 あの状態からまた生えている。
 絹恵 でやああああ！

マシンガン連打！

桃の字 ちったあ、効果あるなあ。
 落ち武者ん？ ふやっ（走って斬る）た！ お、効くぞ！
 藍海 そうか。んんんん・・・哈！
 落ち武者 そうっりゃ！

効果！ ボシュっとか鳴る。

日記 やったか？
 藍海・・・そのようじゃな。
 日記 撒収。

戦車隊の去る音。

第貳部第七場 てれび

日記 今日は楽・・・だったな。

桃の字 戦車隊か。相応の備えだな。

日記 できることなら他国にも手伝ってもらいたいものだ。

桃の字 何を怒っている。

日記・・・この戦い。知っておる者が少なすぎる。

なぜ目黒殿はこのことを知らせないのだ。

絹恵わかりません。しかし、もうじき勝てるのでしょうか？

日記この調子が続けばな。

桃の字今日の具合が続けばひと月ぐらいでアイツはこおんくらいに小さくなるな。

日記それがまた恐ろしい。

文無し いつも裏をかくからな。

日記 一日でも早く片付けたい。

落ち武者なんだ、焦っているのか。

日記・・・そうだな。奴が強くなるまえになんとか。

そのためにも力を集中させねば。

絹恵 おじには私から。

文無し 待て。あまり騒ぐと、例の米国が動く。ちょっとやっかいだぞ。

日記 知っている。勝つためなら大地を焼く。・・・くそお。

絹恵 すみません。助けになれなくて。

落ち武者 いいよ、キヌちゃん。あんたは自分の役目を守ればいい。

小雪 落ち武者おぬし、女子に話しかける時、声が変わっておるぞよ。

落ち武者 そんなことはないさ。

小雪 どこで憶えたのそんなクッサイ芝居。てれびね。てれびなのね。

似合わないからやめなさい。てれびの真似をするのはこの小雪姫だけで結構！

文無し やめておけ。男らしくしておれ。

小雪 女としても最高の美貌、そして芸達者！

文無し ますこみというのはなあなんでも暴くそうじゃ。

桃の字 暴けるもんかい！ この桃山の血は深い深い謎の一族じゃ。

そして、この美しさも男女平等じゃ！

落ち武者 とりあえず、意味はわからん。

藍海知っておる言葉並べておるだけじゃ。

桃の字 待てええい！

せっかくじゃ。三郎どのは世の中にこの戦いを知らせたいのじゃろう！

拙者がてれびの看板役者になって、余にあまねく伝える！ それでよいではないか！

文無し何を言っておる。もうじきこの戦いも終わる。その後で勝手に目立て！

藍海 そうじゃな。しかし、わしらはこの時代に骨を埋めてもよいものなんじゃろうか。

目黒殿は必死にわしらをかくまっている。本当は許されぬことなのではなかろうか。

目立たぬようにしておるにはきちんとわけがあるのじゃろう。

日記 やっと話が戻ったな。それじゃ。わしらはとても狭いところで戦っている。

誰にも知られず。・・・そしてこの町も不気味と言える。

我ら以外の者も、現代人とは違う臭いがする。

桃の字 あれ？

日記 なんじゃ。

桃の字 いや。みんなとっくに気づいているんだと思ってた。

藍海 は？

桃の字 そうか。俺だけか。

藍海 だから。なにがじゃ。

桃の字 いや、よ。この町なんだがな。変わった隠れ里なんだよな。

全員 隠れ里おおお！

桃の字 いやあ。気づいてねえとは。

みんな現代人のふりしてるけど、ほとんどは全然違う時代の人間だ。

他所からの情報は入ってくるが、この町から外には何も伝わらない。

目黒殿はこの町の秘密を守るために政財界に進出したんだ。

・・・なんだ。前に言ったと思うんだがな。

みんな、知らなかったのか。

絹恵 おっしゃるとおりです。といっても、私も詳しくは。

桃の字 わかるよキヌエさん。あんたの秘密は重すぎる。一番俺に近いかもな。

だまってやる。

落ち武者なんじゃそりゃあ。じゃあ、わしらは勝っても英雄にはなれんのか。

藍海 ずいぶんと分かりにくいことじゃな。

日記 俺には読めたぞ。時代を超えた者が集まる場所なんだな。

桃の字 ま、そういうこった。

日記 で、ここから出るには？

桃の字 だからテレビに出ようって！

日記 ダメだ。お主、気づいておってそんなバカをいっているな。

桃の字 ・・・。

日記 凶星か。自分勝手な。いいか、みんな。おれたちは有名になどなれない。

なったが最期、この隠れ里の住民は住む場所を追われる。

文無し お役所仕事。

日記 この国は法治国家だ。例外を消す習慣がある。

おれたちが勝っても外には出ない。出てはならない。
・・・出てはならない。
藍海（日記の肩に手を置く）残念じゃが、そういうことだ。
物の怪はこの町にしか出ない。いや、奴も出られない。
勝っても負けても、奴は外には出ない。
文無しやる気・・・なくなるなあ。
拙者は。勝って、仕事終えて、今の安定職業に就きたいんじゃ。
夢のない話じゃ。
日記・・・いずれ、それも解決しよう。
きっと。妙な習慣なんだ。

第貳部第八場 秘密

日記 我々は閉ざされた里で戦っていた。
物の怪と我々、そして我々同様、別の時代からきた人々ばかりの里だった。
我々が外に出られないのと同様に物の怪も外には出られない。
そのことにはある意味安心といえた。
しかし、世界の広さを知ってしまった今となっては、この状況が窮屈に思えた。
この壁ともいえる感覚に最も抵抗を憶えたのは落ち武者だった。

落ち武者、音楽を聴いている。ボリュームはやや大きい。

藍海しかし、どおにかならんのか！ この年で説教くらいいたいか！
落ち武者うるせえよ！ 青の字も聞け！
なんか突き抜けるようじゃないか！
藍海 儂にはうるさいだけじゃ！
落ち武者この訳読めって！ すごいんだよ。壁はないんだよ。
藍海聴くのは勝手じゃが、音が大きい！
絹恵伊村さん。迷惑はダメですよ。
落ち武者キヌちゃんは聴かねえのか。
絹恵聴きますけど、周りには気を遣います。
みなさん、一緒に住んでいるんですから。
落ち武者キヌちゃんはいつだって青の字の味方だ。

藍海余計なことはいい！音を小さくしろ。

落ち武者 勝手にすれば！

藍海 俺は機械が扱えんのじゃ！

絹恵、ボリュームを下げる。

絹恵伊村さん。いえ、落ち武者さん。あとで、ヘッドフォンを手配します。

落ち武者 なんじゃそのヘックションというのは。

絹恵ヘッドフォン、ひとりで音楽を聴くものですよ。

藍海すまん。こんな者のために。

絹恵いいえ、皆さんが少しでも幸せに暮らせるのなら。労は厭いません。

まして、青の・・・いえ。なんでもありません。

藍海・・・。

落ち武者 ああ、じれってえ。嘘でもいいから好きって言っちゃえよ。

キヌちゃん。待ちくたびれてるよ。

絹恵何言ってるんですか！殺しますよ！

落ち武者 ぬお、怖ええ怖ええ！

藍海 どちらもくだらんこと言っておる場合か。

たるんどる。まだ、戦は終わってはいないのじゃぞ。

俺は先に寝る！

藍海、去る。

絹恵おやすみなさいませ。

落ち武者 達者でなー！

絹恵、ずんずん！と落ち武者に近寄る！

落ち武者、オーディオを止める。

落ち武者・・・頑張れって。

絹恵 でもお。

落ち武者俺の気持ちにもなれよ。

あんたに惚れてる俺がどうして、青の字との恋路を聴かなきゃいけないの？

そりゃさ、聴くけどさ。おれはオキヌちゃん好きだしさ。

あんまりだよ。そういうの。

絹恵心にもないことよくすらすら言えるわね！

落ち武者なんで、泣くんだよ。

絹恵だって。だって。全然、振り向いてくれないんだもん。

づあああああーあ。

落ち武者 あーあ。もう。

絹恵ひどいんだよ。「ちょっとお話が」って話しかけたら「俺も話がある」って。

落ち武者 ほほお。

絹恵で、期待するじゃない？ 今日こそ嫁にとか、彼女になってとか。

そしたら「エリジュのたとえについてどう思う？」って、私「エリーゼの為にですか」って。

「いや、エリジュのたとえじゃ。人はみな自分の価値に気づいてないだけなんじゃ」って。

すっごい目輝かせて。もう、全然意味わかんないいいい！

落ち武者 ああ。よくわかる。で、そのあと猛烈に読書って感じでしょ。

絹恵 そうなの！

落ち武者 ああ、それ邪魔できないんだよな。

邪魔すると叱るんだよ。年なんかそう変わらないのにさ。

じいさんに叱られてるみたいでんか、逆らえないんだよな。

絹恵 私、なんであんな人に惚れてるのおおお？

落ち武者 知らねえよ！ 俺が聴きてえよ。

でもさ、これはわかるだろ。あいつはあいつの大事な仕事があるんだ。

おれは斬ることしかできないけどさ。

あいつは一生かけて一切衆生を救うんだとき。

本当の仏法見つけて、人間全部救うんだって。

でけえよな、悲しいくらい。あいつ、なんで坊さんになったのかな。辛いことあったのかな。

それだけは教えてくれないんだ。

絹恵 五神にも？

落ち武者 人にはそれぞれ言えない過去がある。

俺にだって、キヌちゃんにだって。・・・な。

絹恵・・・私・・・しゃべっちゃってもいいかな。

落ち武者 何を？

絹恵 私の秘密。

落ち武者・・・いいの？

絹恵 うん。その変わり、落ち武者さんの秘密も教えて。

落ち武者・・・んー。・・・よし、わかった。

絹恵 私ね、本当は目黒家の姪なんかじゃないの。

落ち武者 ああ。

絹恵 ちょっと前まで違う名字で。

お姉ちゃん以外、みんな違う家に出たの。

私の生まれた家さ。不思議なこと多くて。おばあちゃんなんか私より若い。

私も・・・なんかやたら丈夫に生まれてきたし。

へへ、人間じゃないのかなあ。

銃の弾道見えるんだ、最近。どんどん、年もとりにくくなるし。

でも、惚れた人は年をとっていくし。

あーあ。泣いちゃおっかなあ！

落ち武者 泣けよ。気がすむまで。ここで見てやるから。

絹恵 そお言われると泣けないなあ。

落ち武者 ずるいなあ。

絹恵 ねえ、落ち武者さんの秘密は？

落ち武者 わしか？・・・わしは。・・・キヌちゃんと似ておる。

絹恵 他所の子？

落ち武者 そうではなくて。遠くから呼ばれてきたのじゃ。

絹恵 ん？

落ち武者 幼い頃のことじゃが、大きな船に乗って、月の向こう側へ行ったこともある。

絹恵 ぬほ？

落ち武者 ある日、星の海から声がしてな。

気づいたら、あるじに拾われておった。

絹恵・・・微妙に私よりぶっ飛んでいる気がするんだけど。

落ち武者 おれはきつとかぐや姫の子孫なんじゃ。

絹恵 それは違うとおもう！

落ち武者 何がだ！おれは月を近くで見たんだ！

絹恵 いや。どっちかっていうと宇宙人か未来人よ。

落ち武者 うちうじん？みらいじん？

絹恵 キャラクターのなせるわざね。リズム感ないから原始人かと思ってたけど。

未来から戦国時代、そして昭和か。

落ち武者 キヌちゃああん。おれに分かるように言っておくれよ。

絹恵 どおりで、時代についていけるわけだ。こんな人でも。

落ち武者 こんな人って？

絹恵 あーあ。バカでよかった。

落ち武者 バカ？キヌちゃん。そういうこというと順番無視するよ。

2人、目が合う。落ち武者の手は絹恵の両肩に。

絹恵 やめなさいって。面白くないわよ、通じ合っていないと。

落ち武者・・・すまん。よく、知ってる。

絹恵 知ってる？こういう関係は友達っていうのよ！

落ち武者 つれないねえ。

絹恵 いい男なのにね。

落ち武者・・・で、どうすんのよ。(腕を組む)

絹恵 何を？

落ち武者 坊さんはなかなか振り向かないぜ。

絹恵 もういいの。分かってるから。

落ち武者 そっか。わかってんのか。

絹恵 だいたい。思い出したし。

落ち武者 辛いな。

絹恵 私が何度も生まれ変わったんなら、和尚さんだって、生まれ変わるわ。

きっと次こそ、私の旦那にしてみせる。
あなたほどきつくはないわ。
落ち武者 え？ もしかして知ってんの？
絹恵 女の勘を忘れなさるな。

絹恵、立ち上がる。

絹恵応援してるわよ。(頬に軽くキス)
落ち武者・・・。
絹恵 お休みなさい！ 落ち武者さん。
落ち武者・・・おやすみキヌ・・・ちゃん。

絹恵、去る。
落ち武者、複雑な表情をする。

第貳部第九場 うわのそら

日記 戦いは順調に思えた。
だが、疲れからか、飽きからか、我々の動きにもつれが出始めた。
文無しが時折呆然としている。
何度か注意したが、人の心は難しい。
文無しは自分がいなくてもなんとかなると確信しはじめていた。
合理的といえは合理的だ。彼は戦いを終えてからの生活を真剣に考えていた。

藍海 文無し！ よいか。今、油断するは危険じゃ。
文無し 戦いはもう終わる。いつまでも目黒邸に住まうわけにもいくまい。
この時代の人間と同様、仕事を金に代え、生活せねばなるまい。
お主らはいつまでも甘えておるつもりか！
藍海 そんなことは勝ってから考えればよかろう！
文無し 勝つの負けるのと！ 騒いでおるのは我らだけではないか。
誰もそんなことは気にしておらぬ。
名誉にもならん。

藍海、ひっぱたく。

藍海 文無しいい！ 佐々木一平太ああ！

なにをなめたことを言っている！

それを油断と言うのじゃ！ 明日にも物の怪が強うなったらどうする！

とどめを刺さん限り、我らに安息はない！

文無し何故我らだけがこんなことをせねばならんだ。

わしらがいなくとも、この時代の兵力ならなんとかなるであろうに！

藍海 わしらの使命を忘れたか！

あ奴は我らの時代の毒虫じゃ！ よその時代に迷惑はかけられん！

いかに兵力抱負とはいえ、五神なしでは死人も出よう！

貴様はそれでも武士か！

文無しならばやめてやる！ 拙者は武士であることにこだわりはない！

大事なのは技を磨く心だ！ 技術は仕事を産む！ 時代に合わせ、人は変わる！

日記いいか、文無し。この仕事を終えない限り、おれたちに自由はない！

文無し 民主主義の時代だというのに！

日記悔しいのは良く分かる！ だが、おれたちがやらねば、いずれまた自由を奪われるものが増える。

お主や俺の苦しみを、他人に分け与えてどうする？

本当の英雄になろう。誰にも誉められなくとも、偉大な仕事を遂げよう！

文無し ダメなんだ。だめなんだ、三郎。

うわの空で、刀に力が入らない！

どんな商売が世の役に立つのかほいほい浮かんでくる。

せっかくの才能がこんな戦いで失われていくのはいやじゃ。

若い時代はそう長くはない！

いやじゃ。こんなところでわしの芽も出ぬうちに刀なんぞに終わるのは。

藍海 分かっておる。分かっておるから、今はしっかり遂げよう。

あと、少しじゃないか。我慢してくれい。

文無し・・・すまん。すこし・・・休ませてくれい。

藍海 そうじゃな。

絹恵、走り込んでくる。

藍海 どうした。

絹恵 予想外です。

日記 何？

絹恵 成体で現れました。二体！

三人 何？（藍海、文無し、日記）

絹恵 先発で桃さんと落ち武者さんが向かいました。戦車隊も一緒です。

日記 分かった。われらも急ごう！

藍海 どうする文無し。
文無し・・・行く！ 勝負時は心得ておる。
藍海 職人じゃな。
日記 行くぞ！

向きを変える。

第貳部第拾場 恐れていたこと

桃の字と落ち武者も並ぶ。

桃の字撃て撃て！ やっと、きたな。
日記 すまん。遅れた。
桃の字 いい手はねえか大将！
日記戦車隊は右のを狙え。足留めすればいい。3号車はこっちに來い！
落ち武者 結構キツそうだな。
藍海 最近、楽しんでおったバツじゃな。
落ち武者 確かに昔はこれくらい当然だったよな。
日記そうれ！ 一匹めいくぞ。
桃の字 奥義！ 虹銀河！
落ち武者派手だなおい。
文無し づりゃああああ！ づりゃづりゃ！
落ち武者 ふーりゃ！ 文無し久々に速えな。
文無し 話しかけるな！
落ち武者 どうしたんだよ。っとう！
日記今日は御機嫌ななめなんだよ。
落ち武者そっか。文無しでも機嫌損ねるんだ。
日記 おい！ 踏み込み過ぎだ！
文無し いいんだよおおお！
だだだだだだだだ！ っはあああ！
桃の字すげえ！ いけるじゃん。
日記 行くぞ！
五神 おおう！

桃の字 そりゃ！ そりゃ！
文無し そりゃ！ そりゃ！
日記 そりゃ！ そりゃ！
落ち武者・・・そりゃ！ そりゃ！
藍海 哈！
落ち武者 そうっりゃ！

グッシャー！
文無し、がっとうきを変える。

日記 戦車隊下がれえ！ よおし、よく持ちこたえた！
文無しつああああ！
日記 早い！ まだだ！

文無し、ひとりに演出が集中。全ての音が遠のいてゆく。
全員、何か叫んでいるが聞こえない！
斬っては刺される文無し。あがいてもあがいても、ダメージは喰らっている。
「どく」音がして文無し止まる。

文無しく、もう、だめなのか。ここまで来て・・・くあっ！
日記文無しいiiiiiiiiっ！
藍海 ち！ 体制を立て直せ！
絹恵 文無しさん！

絹恵、マシンガン乱打！

桃の字 てめえの死は無駄にしねえ。
落ち武者まだ死んだとは（桃の字の表情で察する）畜生おおおお！
桃の字とれよ。仇！
落ち武者 承知！
桃の字 そりゃ！ そりゃ！
絹恵 そりゃ！ そりゃ！（ナイフ）
日記 そりゃ！ そりゃ！
落ち武者・・・文！ 無しの！
藍海 哈！
落ち武者 仇iiiiiii！

グッシャー！
染まる赤。動かない武士達。涙を堪える姿。

日記志し半ばにして文無しこと佐々木一平太が逝った。
彼の限界を知りながら、我らは戦を続けていた。
いつ終わるのか知れぬこの戦いの中。
彼の穴を埋めるかのように、目黒絹恵はとどめを刺す五神に加った。
この日、物の怪はまるで最期の力を振り絞るように何匹も襲ってきた。
何匹も何匹も！
この日の最期の一匹を消そうとしたその瞬間。

日記戦車隊撃てええ！
撃て！ 何をしている！・・・誰だ。そいつは。

総一郎、現れる。

日記目黒殿、何をしている。
総一郎 見てのとおりだ。
藍海まさか！
総一郎残念だったな藍海！ お前の恐れていたことが現実になった。
落ち武者 どういうこった。
藍海・・・。
総一郎この男は私がもらった。自衛隊ももらっていく。
落ち武者 あん？
絹恵 おじさま！・・・おじさま・・・
総一郎勘のいいこと。
日記 まさか、青の字！
藍海（首をふる）
日記 畜生！
桃の字 冗談きついで、おい。
落ち武者 なんなんだよ。
桃の字 ふん。最期はあいつだ！
落ち武者 な？ なんじゃそりゃ！
桃の字 冗談きついな本当。
日記 まさかそんな。しかし、
総一郎ありえるとはずっと考えていただろう。
日記 やるな、てめえ。
総一郎 まあ、そういうことだ。
落ち武者 どおすりゃいいんだ。おれたちは。
桃の字 とりあえず、今日から野宿だ。
落ち武者 なんでえ、それ。
総一郎 はっはっは。今日は挨拶だけだ。

見てのとおり貴様らが不利なのはよく分かるだろう！

落ち武者汚えぞ！

総一郎おや。よってたかって切り刻んできた分際で何を言う。

おかげで俺はやりやすいがな。

今日のところはさらばだ。達しゃでな。

日記 待てええええ！

総一郎、戦車隊とともに去っていく。

藍海 分かっていたんじゃ、こんなことはとうに。

桃の字 青の字。

藍海 文無しだけが救いだった。奴の戦法が変わってもついていけるのは文無しだけじゃった。

日記 俺もある程度は予想していた。

おれたちが戦いしかできない体になったら、戦いとは違う姿になるってな。

絹恵 すみません。本当にすみません。おじが・・・

落ち武者 キヌちゃんのせいじゃねえよ。

日記 そのとおり。物の怪が一枚上手だったということ。

藍海 そして、わしらが変われないということ。

藍海、絹恵の頭をなでる。

すかさず、藍海の胸に飛び込む絹恵。

拒絶はされないが、なにか壁を感じる絹恵。

痛ましそうに桃の字が見ている。

桃の字 ふん。

小雪に交代する。

小雪 みんなは山小屋に帰っていて。

落ち武者 山小屋？

小雪 居候初めてからもこまめに手入れしておいたの。

今日はひとまず、あっちで休んで。私はもうちょっと、見回りにいくわ。

これからどうなるか分からないし、向こうの勢力も知っておきたいわ。

みんなで動いたらみつかっちゃうし、ひとりで行ってくる。

日記 深入りはするなよ。今、力が分断するのは厳しい。

小雪 分かっている。じゃ、ちょっと、いってくるわ。

小雪、走っていく。

落ち武者・・・。

絹恵、落ち武者の表情に気づくが何も言わない。

日記さああ、帰ろう。なつかしい我が家に。

藍海我が家か。アジトじゃないか。

日記 いかにも。

全員、去る。

第貳部第拾壱場 桜吹雪

場面変わって、小雪と桃の字が並んでいる。

桃の字許せねえよな。

小雪 斬るのね。

桃の字俺にしかできねえ。今の五神は人を斬れねえ。

小雪あなたなら斬れるの？

桃の字斬りたかねえけど、人間じゃねえのは俺だけだし。

ち！ 嫌われるんだろなあ。

小雪 かりにも絹さんのおじさんよ。

桃の字しょうがねえよ。物の怪だけじゃなく、自衛隊まで敵にまわすんだぜ。

ほっといたら、他の人間にまで乗り移りかねえ。

小雪勝てる？

桃の字・・・どうかな。

小雪何がそんなに駆り立てるの？

桃の字 もう、くり返したくない。

小雪・・・憶えていてくれたんだ。

桃の字当たりまえだろ！

呪われたお前を斬った、あの日から、俺は一度たりともお前のことを忘れたことはない。

いつしか、お前の心は俺に乗り移った。最近は少しなら体もわけられる。

しかしこの役目。俺の仕事だ。この悲しみは俺だけでいい！

小雪 ありがとう。・・・兄さん。

桃の字ごめんな。恋もまともにさせられなくて。

小雪いいよ。兄さんといられただけで充分。

桃の字・・・さあ、行こう。桃山雪及丞最期の戦いになるかもしれねえ。

たまには一緒にいこうか。

小雪・・・うん。

戦車隊の音。

総一郎 ひとりで来たのか、おろかな鬼め。

豆まきでもしてやろうか！

大砲が連打する音。

無言で、弾いていく桃の字。

何十発も弾いていく内、小雪も手を貸している。

総一郎なんだ、貴様ら、別々にもなれるのか。

桃の字・・・うるせえよ。

総一郎 なんだと。

桃の字 うるせって言ってんだよ。

小雪 哈！

戦車隊の何台か吹っ飛ばす音。

桃の字が、新しく構えている。

桃の字許さねえぞ。このバケモンが！

おれもバケモンだが、てめえとはちがう！

そんなやり方、美しくねえ！ 青の字や絹さんに手出しできねえように、そんな姿。

俺は、あいつらに嫌われようと、てめえを斬る！

俺は桃山雪及丞！ 閻魔の代わりにてめえを焼くぜ！

小雪桃山小雪またの名を鬼が島小町！ 見参！

桃の字覚悟しやがれ！ 奥義！ 大天輪！

2人、ダッシュしてまわる。

総一郎 きかんな。

大砲の音！

小雪 でや！（弾く）

総一郎 やるな！ おおおおおお！

物の怪の音。ちょっと多い。

小雪 これは！

桃の字 へ、どおりで少ないわけだ。見つからねえように増やしてたんだ！

小雪 やばい。かな。

桃の字 「やばい」か。そんなとこだな。

小雪 大丈夫！

桃の字 おっと、まだまだ。

小雪 でも。

桃の字 最期に一撃さあ。加えてやりてえじゃん。

小雪・・・道は私が開くわ！ 奥義！ 桜吹雪！

一面のピンク！ だいぶ減らしたが、また増える物の怪の音に躊躇。

桃の字 ありがとよ。・・・奥義！ いや、いらねえ。

ずあああああああああああ！

ざぶざぶ斬る！

しかし！

「チュプ！」

桃の字 どふ。

小雪 兄さん！

桃の字・・・は。かっこ悪りいな。ここまできて。

小雪 傷なら治るわ。

桃の字 いいよ。・・・お前が消えるくらいなら。

小雪 でも。

桃の字 みんなのところに行け！ 最期の力で伝えろ！ この結末を！

小雪・・・。

桃の字 小雪！

小雪・・・はい。

桃の字・・・鬼さんこちら、手の鳴る方へ・・・

桃の字 が手を鳴らすと一面の赤。

桃の字 の表情はまさに鬼！

桃の字 ぐあああああ！

総一郎 ふん！

桃の字、吹っ飛ぶ！

総一郎 さらばだ。

総一郎、指を鳴らす。

桃の字に無数に刺さる音。

総一郎、腕をのぼす。同時に音。桃の字に止め。

桃の字ぐは・・・

小雪「ぐあ！」

静寂。夜の空気に、その場を後にする総一郎。

桃の字ごふお！・・・無念至極。せめて、誰か仇をとってくれ。

落ち武者桃の字iiiiiiiiii！

いつの間にかいた落ち武者。腕には今死んだと思われる小雪が！

落ち武者 あんたひとりみてえだな。

総一郎私はずっとひとりさ。

落ち武者雑魚はずいぶん消えたみたいだな。（小雪を見る）

一騎討ちといこうじゃないか。愛する者を失った者の怒りを知れ！

総一郎 ふん。

落ち武者 でっやああああ！

総一郎ふんふん！

落ち武者の超速い太刀筋を丸腰で対処できている総一郎。

総一郎 斬る気が足りないようだな。

落ち武者なんで、なんで、そんな格好してんだよおおおおお！

総一郎やはりな。貴様では私は斬れない。

総一郎、腕をのぼす。

落ち武者の腹にサクッと何か刺さる！

総一郎、去る。

落ち武者ふあ。我等がやらねば、だれがやるのだ。されど、拙者どもにそんな力はもう。

第貳部第拾貳場 正直捨方便

場面変わる！

日記 落ち武者ああああ！

藍海 どうした。

日記 今。落ち武者の魂が消えた。

藍海 な。

日記 桃の字も死んだ。たぶん、間違いない。

藍海 まさか。(何か唱え、気づく)

日記 バカ野郎・・・バカ野郎・・・バカ野郎！ バカ野郎！ バカ野郎！ バカ野郎おおお
おお！

藍海 儂が、甘かった。ひとりで行かせなければ。こんなことには。

儂が・・・甘かった。

日記 桃の字が逝った、小雪とともに。

後を追うように落ち武者も倒れた。

遺体はぼろぼろだった。

我々はこのまま戦えるのであろうか。意気消沈する中で、我々はさらに疲れていった。

眠れぬ夜が更けていった。

翌朝。ようやくまどろみかけたころ。青の字が大事なことを伝えに来た。

藍海 よいか。三郎殿。

日記 どうした。

藍海 この戦い。本質が変わったな。

日記 ああ、たしかに。

藍海 もはや外からの攻撃は効かないじゃろうて。

日記 そうだな。

藍海 のう、三郎殿。儂は妖かしを使うのをやめようと思う。

日記・・・どうしたんだ。

藍海 そもそも、あれは誰かの放った、人から人への呪いじゃ。

妖かしはもともと、魔の所行なんじゃ。

儂はあやつを本当に倒すには真の道理しかないとうすうす勘づいていた。

仏法を曲げていては勝機はない。まして、最悪の結果を招いてしまった。

正直捨方便（しょうじきしゃほうべん）じゃ。
今日からもう、妖かしは使わない。
日記・・・分かった。
藍海 わしらが怨みを形にすれば奴も強くなる。
わしらが正義を貫かねば、奴に本当の意味で勝つことはできない。
どうじゃ、三郎殿も唱題しないか。
日記 いや。またにしておく。
藍海 そうか。しばし、休むがよい。
日記ありがとう、青の字。
藍海眠るのだ、三郎殿。起きたらまた戦いの日々だ。

第貳部第拾三場 祝言

日記 虚しいとはこういう気持ちなのだろうか。
いつも気を張っていた俺にはこの感覚になじみがなかった。
剣に身を捧げ、走ってきたのに、もはやその技は通じない。
・・・目黒総一郎氏は政財界でますます力をつけた。
彼はこの町から出られるが、我々は出られない。
いつしか、我々の存在も忘れられていくかに思えた。
ほんの安らいた数日後。久々に元気な声を聞いた。

絹恵三郎さああああん！
日記 なんだ、絹恵さん。陽気な感じだな。
絹恵 あのですね！ わたしですね。キャアアア！
日記 なんなの？
絹恵 はずかしくてゆえなああい！
日記・・・。（シカトしようとする）
絹恵 聴かないと、殺しますよ。
日記 じゃ。早く言ってよ。
絹恵 あ。あ。あ。あ。あ。青。青、青、青、青、のじい。いい。
日記 青のじいさんが。
絹恵 じいさんゆうな！
日記 何？ だから。

藍海 三郎殿！

絹恵 きゃあああ！

藍海 やっと、俺も腹をくくった。絹を嫁に迎える。

日記 本気？

絹恵 きゃあああ！

藍海 そうじゃ、本気じゃ。

日記 えらくまた急だな。

藍海 妙なこだわりを捨てた。これが一番建設的な生き方じゃと思う。

日記 おめでとう、絹さん。

絹恵 ありがとおおお！

日記 どうよ。この状態。

藍海 恥ずかしいのはわしも一緒じゃ。

絹恵 もおおーお。はりきって夕飯作っちゃうううう！（ダッシュ）

日記 なんか、調子狂うなあ。

藍海 同じく。

日記 あんたのせいだろうが。

藍海 いかにも。

日記 しかし、本当に急じゃな。

藍海 人生は短い。せめてあの娘の幸せに身をささげるのもいいとおもってな。

日記 人助けかい？

藍海 いいや。わしのためじゃ。ずっと俺を支えてくれた。これからもそうじゃろう。

いちいちお礼するのも恥ずかしくなってきたな。

なんだか、こう、最近はおいら夫婦なんじゃないか、と思える瞬間もある。

それで、じゃあ、夫婦でいいじゃないか、とな。

日記 絹さんの勝ちだな。

藍海 鬼ごっこでつかまった気分じゃ。

日記 鬼・・・か。

藍海 あんなこともあったばかりじゃが、気を取り直してまた、立ち上がろう！

きっとこの幸せが勝利を呼ぶ。何ごとも勢いじゃ。

日記 そうだな。強気で行こう。

藍海 それでこそ三郎どの。

日記 たった、3人の祝言だった。

どこかで桃の字や落ち武者、文無しが祝ってくれている気がした。

絹さんの作る料理はとても美味しく、青の字の皿に盛られた料理はひととき多く感じた。

いや。実際に俺より多かった。

楽しい夜だった。

俺は酔っぱらい、先に寝た。

第三部第拾四場 お世話になりました

藍海・・・では、わしはさ。さきに寝る。

絹恵あーなーたあ。きゃあああ！

藍海 先に寝る。

絹恵やーだあ。かまってええ。

藍海 お休み。キヌ。

絹恵いやーん。遊んでよう。

藍海 さんざん飲み食いしたであろうが。

絹恵 結婚して最初のよるですよ。

藍海では。そういうわけで。（お休みモード）

絹恵ずるいい。絹も一緒に寝るうう。

藍海これ。恥ずかしい真似をするな。

絹恵 きゃあ、照れてるう！

藍海 やめい。もうちっと慣れてからにせい。

絹恵今、慣れてえ。

藍海明日でも明後日でもよいではないか。時間はまだあるのじゃから。

絹恵 今がいいです。もう、待ちくたびれました。

藍海そうわがママをいうな。

絹恵嫁は大事にして下さい。お互いいつ死ぬやもしれない身なんですよ。

藍海 そりゃたしかにそうじゃが。

絹恵 あーなーたー。

藍海 オオマアエエ。

絹恵ぎこちなあい。絹は嫁です！ もっと慣れ慣れしくして下さい。

総一郎 そうだな。夫婦は仲良くあるべきだな。

絹恵 おじさま。

総一郎 結婚おめでとう。絹恵、そしてその新郎藍海！

藍海 貴様。

総一郎 おめでとう。いつまでも仲良くな

総一郎の背後から銃弾。

絹恵が藍海の前に入ると同時に銃の音！

絹恵がぐったりする。

藍海 絹ううう！

絹恵 幸せです。夫婦になって死ねて、幸せです。

藍海 絹！

絹恵 夫を守って死ねて・・・本望です。

総一郎ほお、女泣かせだな。

藍海 貴様・・・絹。ありがとう、今まで。

わしの為に何度生まれ変わったことか、こんな身勝手な男のために。

総一郎 さあ、かかってこい藍海！ お前の秘技を見せよ！

藍海 いや、儂はもう妖かしはつかわない！

総一郎では、死ぬか。藍海！

藍海 目黒総一郎殿。目をさませ！ 心のどこかにわずかでも生きているのなら目覚めよ！

総一郎 無駄だ。

藍海 貴方の姪は死んだ。貴方の銃弾によって。

目覚めよ。多くの人を救う正義の人！ 町や国を守る名士よ！

あなたの正義はそんな物の怪などにはまけない。

総一郎無駄だと言っているであろう。

藍海南無妙法蓮華経。南無妙法蓮華経南無妙法蓮華経南無妙法蓮華経。

南無妙法蓮華経南無妙法蓮華経南無妙法蓮華経。

総一郎殿、一緒に戦おうおおおお！

総一郎 無駄だ。

銃弾がまた。

藍海南無妙法蓮華経南無妙法蓮華経南無妙法蓮華経。

南無妙法蓮華経南無妙法蓮華経南無妙法蓮華経。

この体朽ち果てても、総一郎殿は取りかえす。

南無妙法蓮華経南無妙法蓮華経南無妙法蓮華経おおお

総一郎 遣れ。

銃弾ではなく物の怪の音。

藍海を貫く。

屍の夫婦が美しい。

藍海南無妙法蓮華経南無妙法蓮華経南無妙法蓮華経。

総一郎・・・。

藍海 総一郎どのおおおおおお！

絹恵おじさま・・・。

総一郎 絹恵。

絹恵わたし、このお方と結婚しました。

今まで、お世話に・・・なりました。絹は・・・嫁に、いきます。ぐ！

総一郎 絹恵えええ！

駆け込んでいく日記。

その光景に呆然とする。

藍海 三郎どのか。

日記、総一郎の背後の物の怪らを一掃。

藍海 すまぬ！・・・さきに逝く！

日記 青の字いいいいいいい！

総一郎 すみません。すみません、私が弱いばかりに。

絹恵ばかりか五神まで。

政の野心につけ込まれた。もっと、力をつけねばと願う内、つけ込まれた。

本当に申し訳有りません。

・・・絹恵。おめでとう。

日記 あんたのせいじゃないさ。

我々がこの時代に送ったせいだ。

手に終えぬ物の怪をあんた達の時代に送ったわれわれのせいだ。

なんの咎かはわからぬ。

人の呪いだと青の字は教えてくれた。

賢い男だった。いつか法華経の行者とやりに遭わせてやりたかった。

運が悪いやつだった。そして、幸せな奴だった。

いい、最期だったかもしれない。

総一郎・・・。

日記俺はここを去る。

へへ、残ったのは拙者だけか、拙者だけなのか・・・。

日記、立ち去ろうとする。

総一郎 三郎さん、どちらへ。

日記 俺は、新しい戦力を探しに行く！

この戦いはまだ、終わらない。

総一郎三郎さん。なにか力にはなれませんか。

日記俺はここにいなかった。

この町にいなかった。俺はだれでもない。

世界をまわる。この町には迷惑はかけない。

また、いつか、連絡する。

総一郎 三郎さん。

日記 ん？

総一郎 御無事で。

日記 あんたもな。

日記、去る。

第貳部第拾五場 日記

場面変わる。

文無し最後に残った武士本田三郎はなんと日記を綴っていた。

桃の字武士たちと、物の怪との死闘が性格に記してあった。

落ち武者そして、死にゆく者たちのその思いも、つぶさに書き込まれていた。

藍海 彼は最後の力を振り絞り、信頼できる人間をさがした。

日記いや、誰でもよかったのだ。我等の思い綴りしこの曆。何びとでもよい。

一行でも読みさえすれば、ことの重大さはわかるのだ。

謎の老人が現れる。日記、倒れる。老人、戦記を手にする。

老人 これは・・・

日記拙者のやりのこした仕事で・・・ござる。

老人・・・その思い。しかと受け取ったぞ。

日記 しかし・・・

老人 わかっておる。この老体では無理だと言うのであろう。

大丈夫。これは私が果たすべき使命だ。

日記・・・使命・・・

老人 いつの時代にも若者がいる。

私が青年を集めよう。

日記 かたじけのう・・・う！

文無しそして、この老人は若者を集めた。

桃の字だが、彼らの活躍はまだ始まってはいない。

落ち武者彼らの活躍はやがて来る平成の世に入ってからのことである。

日記 桃の字。

桃の字 どうした。

日記 落ち武者。

落ち武者 なんだよ。

日記 文無し。

文無し 呼んだか？

日記 青の字。

藍海 どうした、三郎殿。

日記 三郎殿は、やめよう。しっかりこないわけだ。意味がない。

俺、日記綴ってたんだ、五人戦記……。

俺のあだ名さあ、日記なんてどうだろう。日記綴ってたんだ、いつもさ。

だから、俺のこと日記ってよんじゃくれねえかな。

桃の字日記。

藍海 日記。

文無し 日記。

落ち武者日記。

キヌ 五神の一角、本田三郎。

五神いや、五人のうちのひとり、「日記」

五人戦記を綴った男だ。

日記 おれは日記。そう、それでいい。

倒れる日記。

全ての終わりをつげるような切ない情景。

だが、遙か彼方からは若い戦士達の成長の音が聞こえる。

日記 また、かけるといいいな。五人戦記。

幕

(「五人戦記」完)

あとがき／資料

あとがき

あとがき

この作品は今から十年も前に書かれたものです。上演当時にあとがきを書いたつもりだったのですが、それは「上演に寄せて」という公演パンフレット用記事でした。そこで、いまさらですが、あとがきとなります。

当時の私は学費の獲得に忙しかったことを思い出します。前年のワインレッドの反省から生まれたこの作品は、女子中心で活躍の場がなかった男子諸君から支持を得て、強く励まされ書きあがったものです。しかし、上演がほぼ決まった頃に、私はその年の学費が払えないことが判明し、休学届を出しました。自ら演出するはずだったのですが、休学中に責任者になるわけにはいかず、脚本の提出だけとなりました。敗戦の色濃いまま仕上げ、提出した記憶があります。

今読み返すといろいろと隙は見つかるのですが、その若さがこの作品の味なのではと思います。純粹さと複雑さの混ざった青春の一部と言えます。

この作品はいつか再演されると信じています。なんというか、脚本が訴えてくるのです。魂こもってる感じです。

「五人戦記双書」は脚本『五人戦記』、ヒーローものの小説『五人戦隊ノブナガEX』、ロボットものの小説『護星戦機exeX』という三作品を中心に描かれていきます。基本的にドラえもんの範囲内のSFファンタジーですので、歴史考証は義務教育の範囲内に止めています。それでも想定外のテイストで描いていきますのでよろしくお願いします。

資料 登場人物詳細

五人戦記 登場人物紹介

日記

織田の若武者。王の器を持つ。本田三郎を名乗る。織田信長は若い頃うつけと呼ばれたが、君主となってからは優れた武功を立てた。とする歴史をヒントに描かれた人物。つまりは若い頃の信長と有名になってからの信長は別の人物とする解釈によって本作品の一端をなす。歴史に残る信長の役割を側近の虎信に託し、自らは物の怪討伐のため時代を越えた。

未来的なものの考え方をする若者で、戦略に長けている。嫌味のない天才である。

彼が虎信に託した「天下統一のススメ」は消滅したが、虎信が同じ趣旨で残した「信長未来記」は歴代為政者によって綿々と引き継がれている。自衛隊が援護に回ったり、後のノブナガEXが誕生したりできるのはこのためである。

最後の最後に「日記」というあだ名を名乗る。

藍海

怪しげな術を使う僧。青の字とも言われる。時代を超えるほどの力を持つ。意思の力に比例し、具体化してしまいやすいという生まれつき超常能力を持つ。出生不明。幼い頃、賭場で稼いでいたが、怒りでヤクザ者を惨殺したという過去を持つ。寺に拾われ修養を積む。

さも秘術を使っているように見えるが、そのように思い込んでいるだけで、実際は本人のもともとの力である。ただ、術を使っているという姿勢が、能力の制御の一助となっているため、術の意義には敏感である。

修行の甲斐あってか慈悲深く、地上にいる人間の全てを救いたいと本心から願っている。おそろしく勤勉で、比叡山の学問を学び尽くした。当時の天台宗といえば密教が盛んで

あり、彼のいうあやかしとは真言の類いである。正法である日蓮仏法との出会いから、真言が魔法や呪術のようなものであり、呪いと知る。だがこれをなかなか捨てきれぬというのがこの物語の核となっている。

この物語に出てくる物の怪は、怪獣の姿をした「反生命体」であるため、仏法という解釈以外に対策がない。「反生命体」は生命ではないので対話や共存の余地がない。物の怪はどうやら生命の失われる瞬間、特に元気な者が死ぬところに興味があるらしく、五神に寄ってくるのもその生命力が失われる瞬間を見たい衝動のようだ。

反生命体は「誰かが放った呪い」を餌に物の怪の姿を借りて、この世に出現した。これを逆手にとり、藍海のあやかしはマイナスの力に満ちており、物の怪を腹いっぱいにする効果があるため、動きを止める役割を持つ。その逆で、生命力に満たされた「魂のこもった一撃」にて消滅する。

藍海があやかしを捨てて正法に身を投げたとき、その生命力により、反生命体を退却させるに至った。

落ち武者

井村晩次郎。優れた回復力を持つ。呼吸が合わない。木星時代からやってきた時空孤児である。少年の頃に様々な時代で冒険をしているため、我流ながら戦慣れしている。返り血を浴びただけで病になると云われている物の怪に免疫があり、噛み付いて力が増した猛者である。そのため、五人戦法では止めを担う。

本人が正確な年齢を把握できていないため、劇中はあまり触れていないが、登場人物の中で最も若い。豪放そうに見えてなかなか多感であり、悪いお兄さん風の言葉使いをする。音楽の趣味は雑食、そして恋愛に強い興味がある。

絹恵とは中二病どうしのいい友人である。さも絹恵を口説いているかのように振舞うが、実際は小雪が好きである。彼の嗅覚は小雪が単に化けた姿というわけではないことに気づいている。

精神的幼さから、目黒の姿をした物の怪を斬れないという様子は、こういった事情にもよる。

桃の字

桃山雪乃丞。桃太郎や鬼の末裔。派手な技を使う。桃太郎一族の当主であるが、物の怪の出現に差し掛かった頃に一族がほとんど壊滅している模様。派手好きで、幻術と剣術を併用した多彩な必殺技を繰り出す。

彼の派手好きは生来のものではないようである。ひっそりとした一族の生活様式のせいで、緊急時に助けを呼べなかったことを悔やみ、注目を集めることに意識を集中するようになったというのが理由のひとつである。また、子孫を残す力が極端に低いため、無数の妻を持たねば子を産めないかもしれないといった理由が挙げられる。

器用過ぎるせいか、斬ったはずの妹に変身することが可能になった。当初は上手に演じていただけであったが、昭和編の頃には実在する人物になってしまっている。

人に嫌われることを恐れており、鬼の姿はほとんど見せることがなかった。

文無し

佐々木一平太。才覚溢れる剣士。戦術家でもある。拾われた武士で、上昇志向が強い。商人のような賢さを持ちながらも、職人氣質の面を併せ持つ。自ら磨いた剣術でのし上がるなど、剣術の指南としての資質も充分で、五神の中では尊敬を集めている。特に集団戦法を知らなかった落ち武者はだいぶリスペクトしている模様。三郎が提唱した五人戦法を実際に組んだのは彼である。

自分が成り上がっていることをよく知っていて、わざわざ黄金色の着物を着ている。ゆえに、文無しというあだ名が面白いらしい。

ジャパニーズビジネスマンをイメージして描かれている。

小雪

桃山小雪。雪乃丞が女性に化けた姿。桃の字の妹。生まれながらのスーパーヒロインで、一度死んでいる。雪乃丞の色男っぷりに何も思わないところから、完全に血のつながった妹あったと推測される。生前は明朗快活なお姫様であったようだが、雪乃丞に乗り移ってからは少々お上品になったようだ。雪乃丞が思うよりも幼く、恋愛よりも冒険が好きである。

雪乃丞同様に多彩な必殺技を持つ。小道具づくりの困難が予想されるために劇中で割愛されているが、無線機にヒントを得た「ちっさい小雪ちゃん」という通信機を発明している。物の怪出現の早期発見や五神が相互に状況把握できるのもこの発明のおかげである。

オキヌ

藍海を慕う村娘。良い教育を受けた、聡明で強い女性。藍海以上に頑固者で、五神以上の困難を乗り越える。尾張方面から駿河までおつかいについて、二日ほどで帰ってくる意思の強さは半端ではない。

決意は非常に固く、生涯を各村落の救済と武術の修行に費やす。それどころか、生まれ変わっては同じように修行をするという一生を繰り返して、ついにははるか未来の五神に迫り着く。

虎信

三郎の側近。三郎の代わりに信長になった男。彼の役割は強い国を作ることにより、未来の五神をサポートすることである。その超越した志は、戦国時代を圧倒する存在感を示している。三郎の理想に徹したために迷いはなく、混乱した時代をまとめあげる。

彼の残した「信長未来記」といい、後のノブナガEXの礎となる。

総一郎

目黒総一郎。代議士。なかなかの名士である。御堂流を守る家の一つである目黒の一員。北の町を出入りできる。

非常に真面目であり、政権の一部にも携わる。「信長未来記」の存在も知っている。北の町の関のひとつに自衛隊の駐屯所を作り、物の怪に備えている。

五神を匿うが、物の怪に乗っ取られてしまう。

正気に戻った後は翁とともにノブナガEXの創設に尽力する。

絹恵

目黒絹恵。総一郎の姪。銃の名手。本名を御堂琴憂絵（みどうきぬえ）という。御堂息吹の娘であり、御堂曲美譜（みどうくびゅう）の妹である。本家は姉が継いだため、分家となるため目黒になる。

御堂は時折スーパーヒロインの生まれる家系で、琴憂絵も卓越した身体能力を持つ。御堂流自体は芸能に特化していったために、琴憂恵も舞踊と殺陣は一流である。目黒絹恵となって北の町に住むようになり、五神の夢を見るようになる。各国の戦闘訓練にも参加しており、武器の習熟度も高い。藍海を目にしてオキヌの生まれ変わりであることを自覚し始める。何百年もの修行の末、スーパーヒロインとして生まれ変わったのである。

性格は育ちの良さと熱さが両立している。夫を守って死ぬというまさにスーパーヒーローらしい最期を遂げる。

※ワインレッドで登場した御堂家出身というクロスオーバー設定に、ワインレッドに続いて五人戦記を演じたサザンクロスでは賛否が分かれ、上演時には「複雑な家庭」という表現にぼかしてある。

老人

放浪の翁。 栄華を極め、目的を見失った老人であったが、五人戦記を託され使命に生きる。

ノブナガEXでは本田老人として登場。第一楽屋のピエールの母方の祖父である。

資料 大志

大志

この晴れた大空に 自分の気持ち届くなら
明けても暮れても ひとすじに汗を流したい
己の道を 進むなら正直に生きる方がいいと
剣に問うては勇ましく 臆病風斬りつける
男は大志抱くもの 涙堪えて強くなる
不器用でも邪魔されたくない

大きくなれる気がする 無敵になれる気がする
信じれば 俺はどこまでも
大きくなれる気がする 無敵になれる気がする
信じれば俺はどこまでも
行ける気がする

この荒れた 日の本に のどかな日々が届くなら
負けても死んでも一太刀を 奴に浴びせたい
志がどうだとか 他の道があるだとか
迷いはじめて ためらって 目をつむり尻叩く

人とは正義求むもの 邪悪こらえて 強くなる
明るい空壊されたくない
大きくなれる気がする 無敵になれる気がする
信じれば 俺はどこまでも
大きくなれる気がする 無敵になれる気がする
信じれば 俺はどこまでも
行ける気がする

瑠聖 主悟真

平成十二年六月十四日

Rush Papiyon 2000/06/14

奥付

小劇場公演の為の戯曲「五人戦記」（五人戦記双書より）

原案「五人戦記双書」娛誠粒真一（パップUCZ）

「五人戦記」脚本製作委員会

製作・著作 盛留真悟（アルジプロダクツ2000）

脚本 毬宇齋悟達（パップUCZ）とチームMG

チームMG

文章 毬宇齋 悟達（パップUCZ）

文章補佐 芽賀 義雅（幻想粉）

構成 毬宇齋 我津（アルジプロダクツ2000）

歌詞瑠聖主悟真（幻想粉）

参考文献「第一楽屋」創本舞（創舞塾脚本委員会）

盛留 真悟

重根 収

小峰英一

染谷 誠

二〇〇〇年盛留真悟作品

著作権管理 アルジプロダクツ

※五人戦記双書の中核作品である「五人戦隊ノブナガEX」は「第一楽屋」の劇中劇として提供しており、同時に五人戦記のダイジェストも一度上演されている。「五人戦隊ノブナガEX」の序章に位置する「五人戦記」本格執筆にあたり、「第一楽屋」で扱ったあだ名の文化を演劇の仕組みとして再び取り入れたことから、敬意を表して創本舞「第一楽屋」の名を奥付に表記する。なお、創本舞に参加している人物らは実在する。

※娛誠粒真一、毬宇斎悟達、瑠聖主悟真及びTeam-MGメンバーは盛留真悟のペンネームの一部であり、Pap., U. C. Zや幻想粉はその工房に位置するものである。また、著作権を管理するアルジプロダクツは盛留真悟の屋号である。したがって、この作品における全ての権利は盛留真悟が有する。

※この作品は2000年秋の多摩大学演劇サークルSouthernCrossの学園祭公演に向けて執筆されたものである。脚本という性質上、会場の状態に合わせてたり、出演人数の調整に応じた部分もあるが、概ね修正の予定はない。予告なく訂正や加筆を行うことがあるが、バージョンは奥付等に記録される。

※電子本出版にあたり、本文の一部に修正を加えた（2010年7月7日）

上演などに関するガイドライン

「上演許可料」盛留真悟は上演の許可を求める手数料である上演許可料なるものは請求しない。このため、アルジプロダクツは商業目的以外の全ての公演に関し、上演は無条件

で許可する。

「著作権使用料」盛留真悟は上演について著作権使用料を請求する。このため、アルジプロダクツは商業目的を含む全ての公演に関し、作品の内容ならびに設定、意匠についてロイヤリティーの請求を行う。一次利用二次利用を問わず、売り上げの一割以上を目安とする。支払いは興行等ならば本番前後一ヶ月。販売等ならば年度の四半期決算内をつよく希望する。

以上より、無断での上演や上映は可能であるが、トラブル回避のため企画進行上の早期の連絡を強く期待する。

アルジプロダクツ 盛留真悟（2010年7月7日）

五人戦記

著 盛留真悟
編 集 ALGI Products

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
